

～豊かな表現力の育成～伝え合う力を高める指導の研究～

I 研究の内容

東山梨地区日本語教育研究部会では、小学校・中学校の二部会に分かれての研究体制をとっている。最近の生徒達の実態を踏まえ、このテーマを設定し研究を進めてきた。現代社会の変化に伴い、生徒を取り巻く人間関係も希薄になってきている。自分自身の気持ちを表現する力や、相手の気持ちを理解する力の乏しさが気になる場面も多い。その力こそが「伝え合う力」であり、円滑な人間関係を築くための力として、その育成が求められている。「伝え合う力」を高めるためには、語彙力、想像力はもちろん、他人を思いやる心、感動する心などの豊かな人間性とも関わってくる。そのなかでも「言葉」によって表現する力・「言葉」をもとに理解する力こそが、国語科で扱う「伝え合う力」であると考えた。授業の中で「書く」「話す」場をたくさん用意すること、また伝えられたことを受け止めること、そして受け止めた事柄、考えを判断し、自分の考えをまとめ深める力へとつなげていきたい。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を統合した力として育てていくことがこの「伝え合う力」の育成であると考え、いろいろな方向から「伝え合う力」の育成を目指したいと授業作り、実践を行っている。

今年度の授業実践は、9月の統一授業研究で山梨南中学校において行った。作文が苦手な生徒への指導という方向性が年度当初確認されていたので、その方向性について話し合いを深めていくことができた。「書くこと」を通して「伝え合う力」を高めていく授業を目指して、授業案の検討を行っていった。生徒の実態からその克服に向けての授業実践であった。2月の統一授業研では、小学校との合同研究を行った。「音やようすをあらわすことば」を題材に、授業案作りにも参加した。小学校2年生の説明的文章の文章構成等を学び取る学習の中で、「擬声語」「擬態語」に関するものだった。いくつかの音を班ごとに考えさせ、その音の大きさ強さを考えさせる授業実践であった。子どもたちの感性が表れて、発表形式も取り入れる中で、活発な授業が行われた。

II 成果と課題

1 山梨南中学校 武井善史先生の実践「過程を大切に作文を書こう」について

山梨南中学校の2年生において、授業を行った。1年生のころより、「書くこと」に関しては、文字数や時間を指定し、行事作文を定期的にかかせるなどをしてきた。また、授業の中では、30字～50字程度の意見文を書かせ、添削指導を行うようにしてきた。し

かし、多くの生徒は、文章を書くことに対し、苦手意識を持ち、書く前にあきらめてしまう生徒が多いのも実情である。また、最終的に何も書けずに終わってしまう生徒も少数ではあるがいる。このことは、山梨南中学校だけにおける課題ではなく、多くの国語教師が悩む問題でもある。今回の授業では、はじめに生徒各自が持つ作文の苦手意識がどこにあるのかを「何を書けばいいのかわからない」「構成・骨組みを作れない」「文章は書けるが漢字や文法に誤りがある」「文章は書けるが工夫ができない」の4項目に分けてアンケートを行った。これを行うことにより、生徒が自分の課題を考えるよい契機となった。また、クラスによってその結果に差があることも浮き彫りになった。これは、作文指導の多様性を表す結果でもある。

今回の授業では、「マインドマップ」を使用することにより、自分の書く題材を見つけ、どのように文章を構成していくのかを指導する授業を目指した。一つの提示語に対し、「マインドマップ」を作成し、その中から自分が書くことの柱を見つけ、そのことの構成をマップの中から考えていくというものだ。提示語を「気・木」としたが、少し難しいという意見も出された。また、「マインドマップ」のどこに注目するかで、提示語である「気・木」から離れてしまうこともあった。どこの部分に注目させるのかという指導と、具体例と結論の整合性を考える指導を行っていけば、今後の深まりにつながっていくのではないか。更に、「マインドマップ」の持つ長所短所を教師がより深く理解し、作文指導のみならず、どの指導に役立てていけるのかを模索していくのもおもしろい。

今回の授業を通し、学級の雰囲気非常に良かった。自分の考えを自由に表現する雰囲気があった。この授業では、着想・構成が中心であったが、作文を得意にしていくには、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言語に関する知識」など、総合的な力がなければならない。日々の授業の中で、どう関連づけて指導していくのが課題となる。また、小学校でも作文指導は行っているので、小学校と中学校の指導の関連性を持たせていくことの必要性があると考え。多くの学校で、日常から連絡帳の添削などを行っているようであるが、国語の授業の中だけでなく、学級活動を通して、教科活動を通して、国語力の向上を目指していくことも大切である。

2 その他

- ・部会への出席状況もよく、研究を進めることができた。
- ・小学校との交流を通し、小学校の実態等を学ぶことができた。今後も小学校と中学校の指導内容を連携していくことが必要である。
- ・これまで「伝え合う力」という言葉をテーマに掲げてきたが、指導要領に言語活動という言葉が入ってきているので、テーマの見直しも必要になってくる。
- ・新指導要領移行に際し、古典の指導などを中心に、小中学校が連携し、理論研究を進めていくことが来年度必要になってくる。

(部長 渡辺 良仁)